

2 まちをきれいに



↑地域の清掃活動

いつも通る道路に紙くずや空きかんなどが落ちていたら、みなさんはどう思いますか。

友だちと遊んでいる公園で、ごみや犬のふんがあれば、どんな気持ちになるでしょう。よごれてこわれそうなかん板が道をふさいでいると、どんなことが起こるでしょう。

みんなの心がけひとつで、まちはきれいにすることができます。家や学校のまわりで、できることを考えてみましょう。



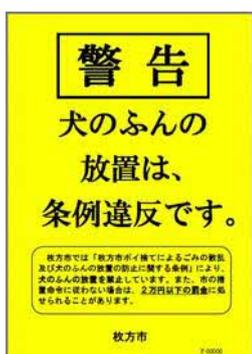
↑市民ボランティア活動（アダプトプログラム（hana くずは商店会）
ちいま地域の会社や市民グループがボランティア活動で、ひらかたしの道路や公園をそうじしたり、花を植えたりしてきれいにしています。
市役所では、ほうきやちりとりを貸し出したり、集められたごみをかいしゅう回収しています。



↑ひらかたクリーンリバー（天の川クリーン&ウォーク）
市内を流れる船橋川、穂谷川、天野川の3つの河川の堤防では、毎年ごみ拾いの行事を行い、参加者に川を身近に感じてもらって、「ごみを捨てない・捨てさせない」環境を広めています。小中学生や地域の自治会・企業の皆さん・ボランティアなど、多くの方が参加して川がきれいになるように清掃活動を行います。



↑ ポイ捨てしないように呼びかける看板（長尾駅）



↑ まちの美化を呼びかける看板

上：ポイ捨て禁止

下：犬のふんの放置禁止

（1）^{ひらかたし}枚方市の決まり

枚方市では、まちをきれいに保つために、市民一人ひとりが守る決まりがあります。

① ^すポイ捨てをしない

ジュースの空きかんやペットボトル、お菓子のふくろ、紙くずなどは、道路や公園にポイ捨てしないで持って帰るか、きちんとごみ箱に捨てましょう。

② 犬のふんは持ち帰る

犬の散歩に行くときは、始末する道具をわすれずに持って行きましょう。そして、ふんをしたら必ずかた付けて持ち帰り、家で処分（^{しょうぶん}）しましょう。



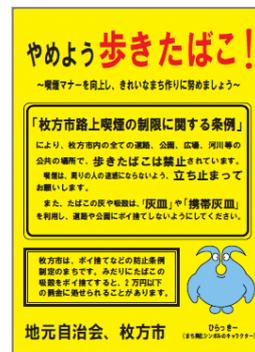
↑ 路面シールが設置された道路（枚方市役所前）

③ 歩きたばこはダメ

枚方市では、火のついたたばこを持ち歩くと危ないことと美しいまちを守るため、公共の場所では移動しながらたばこを吸ってはいけないという決まりがあります。人が集まる場所ではまわりの人の迷わくになるので、人が混み合う枚方市駅と樟葉駅のまわりではたばこを吸ってはいけない区域も定めています。

④ おやみに広告を出さない

まちに広告を出すときには、交通の安全をさまたげる場所など、みんなの迷わくになる場所に出すのはやめましょう。よごれたり古くなったり、こわれそうなものも外さなくてはなりません。



↑ まちの美化に関する看板「やめよう！歩きたばこ」



↑ まちの美化を呼びかける路面シール

さんこう

しょうらい 条例

大阪府や枚方市で作るみんなに守ってもらう決まりを『条例』といいます。

①～②は「枚方市ポイ捨てによるごみの散乱及び犬のふんの放置に関する条例」で、③は「枚方市路上喫煙の制限に関する条例」、④は「枚方市屋外広告物条例」で決まっています。



ちいき せいそう さんか 地域の清掃活動に参加しよう



クリーンリバーのほか、自治会や地域のボランティアグループの皆さんが公園や道路の清掃に取り組んでいます。

広報ひらかたや回覧板を確認して、地域の清掃活動に参加してみよう。



↑ 大阪湾に漂着した海ごみ（提供：大阪府）

かいよう (2) 海洋プラスチックごみ

みなさんは、海洋プラスチックごみという言葉を知っていますか。

海洋ごみとは、きちんとごみ箱に捨てられずに、みちや公園などに捨てられたごみが、雨や風によって川へ入り、海へと流れ込んだものを言います。

このうちプラスチックは、自然に分解されずに、川の流れや海の波、太陽の光などによってとても小さくなります。このとても小さくなったプラスチックのことを、マイクロプラスチックと言います。

このマイクロプラスチックをえさと間違えて小さな魚が食べて、その魚を大きな魚などの他の生き物が食べ、またそれら大きな魚などをわたしたち人間が食べていることとなります。



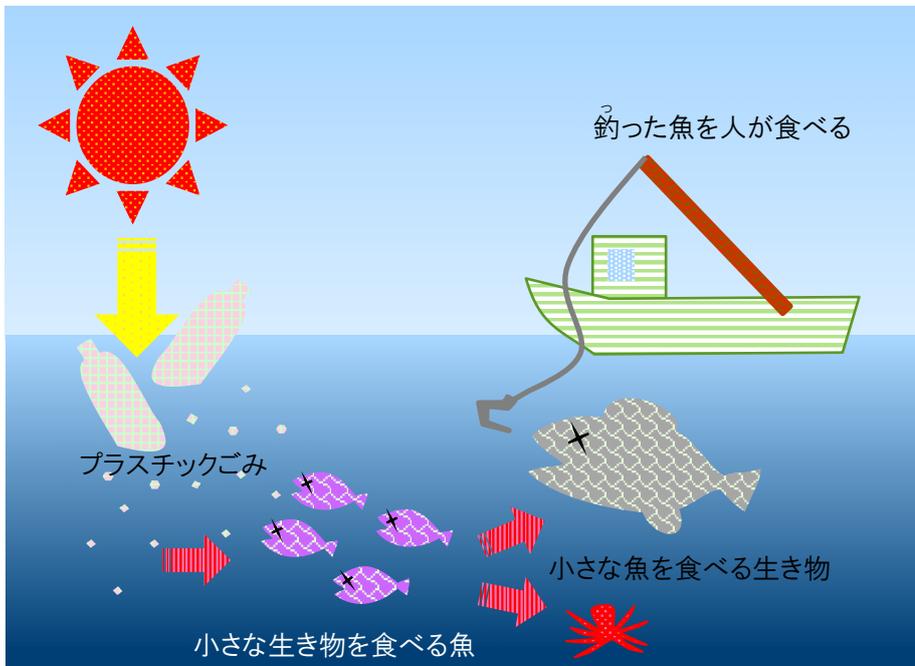
↑ あみがからまったオットセイ
(提供：海上保安庁)

さんこう

マイクロプラスチック

自然環境中にある5ミリ以下の大変小さなプラスチックのこと。

なお、マイクロとは、1ミリの1000分の1の大きさのこと。



↑ マイクロプラスチックが動物の体に入るまで

また、マイクロプラスチックに有害な物質がくっついたりすることで、人や生き物の健康に影響があるかもしれないと心配されています。

私たちのくらす枚方市は、海に面していませんが、たくさんの川が流れていて、その川は淀川につながり、やがて大阪湾へと流れていきます。

海洋プラスチックごみの問題を少しでもよくするために、枚方市では、『ひらかたプラごみダイエット～ポイ捨てゼロ宣言』をしています。

そして、枚方市にくらす人、はたらく人、おとずれる人みんなに、レジ袋などのプラスチック製品をできるだけ使わないことや、ポイ捨てをしないできちんとごみ箱に捨てること、川やまちの清掃活動に参加することなどを呼びかけています。

このように、海の生き物を守るためにわたしたちにもできることがたくさんあるのです。

ひらかた
プラごみダイエット
～ポイ捨てゼロ宣言

枚方市では、「環境を思いやるまち枚方」を実現するため、市民・市民団体・事業者・行政が連携・協力して、環境保全活動に取り組んでいます。
近年、私たちの生活に広く普及し、欠かせないものとなっているプラスチック製品が不用意にポイ捨てされるなど適正に処理されず、河川などを通じて海へ流れ込み、長年わたって環境中にとどまり続けることで、海洋汚染を引き起こし、生態系や人への影響が懸念されています。
海洋プラスチック問題は、決して枚方市においても無関係な問題ではなくその解決・改善のためには、ポイ捨てをしない・させない環境づくりや使い捨てプラスチックの使用を削減することが不可欠です。
こうしたことから、枚方市では、市民・市民団体・事業者・行政が連携・協力し、プラスチックごみ等ポイ捨て防止の啓発活動や使い捨てプラスチックの削減に向けた4R(リデュース・リユース・リサイクル・リサイクル)の取り組みを推進して、プラごみダイエット～ポイ捨てゼロを宣言します。

枚方市では、プラスチックごみ削減のため、まずは次の事項に取り組みます。

- アダプト団体等と連携したポイ捨て防止の啓発とクリンリバーの拡充
- 市内の商店等と連携したレジ袋の削減

Plastics Smart 令和元年6月1日
枚方市長 伏見 隆

↑ ひらかたプラごみダイエット
～ポイ捨てゼロ宣言

さんこう

レジ袋有料化

プラスチック製品を使いすぎている今の生活を見直すきっかけづくりとして、令和2年7月1日より全国でレジ袋有料化がスタートしました。

自然にぶんかいするもの、地球に優しい素材以外のレジ袋は有料になります。

はってん

世界で1年間に使われる
ビニール袋は5兆枚。

世界で1分間に売れるプラスチックボトルは100万本。

世界で1年間に売れた飲料水用のボトルは4800億本。

少しずつ減らせるようにみんな考えてみよう。

出典：国連広報センター